

今年度も素晴らしい1年になりますように

2月3日節分の日、初台リハビリテーション病院の4階病棟で豆まきをしました！
節分の由来をお話し、福が訪れるように豆…ならぬ、「豆の代わりに新聞で作った豆」をスタッフ扮する鬼に向かって投げました！患者さまやご家族が鬼に「こっちにきて～」と声をかけたり、皆さま楽しまれていらっしゃいました。鬼さんお疲れさまでした！栄養部も腕をふるい、見た目も味も素敵な行事食を提供。とても素敵な1日となりました！



3月29日 第7回 市民公開講座を当院大会議室にて開催

開院以来、毎年実施している市民公開講座は今回、テーマを「リハ専門医から学ぶ／家庭でできるリハビリ体操～いきいきと老いるために～」とし、医師、理学療法士が講演を行いました。講座前半は、老いるとはどんなことか？を解説し、後半では皆で体操を行いました。最後は、質疑応答の時間を設け、大盛況！ご参加頂いた市民の皆さまからは大変ご好評を頂きました。次回開催する際も広報ふなばしや院内掲示でお知らせしますので、その際は是非皆さまご参加下さい！



地域に根ざしたセンターとして訪問看護ステーションを開設

昨年7月にオープンしました当センターでは、外来・通所リハビリの総利用数が延べ500件を超えるまでに増加している他、訪問リハビリにおいても順調に訪問件数が増加しております。ひとえに、患者・利用者さま、地域の連携事業所の皆さまからのご支援によるものであり、心より感謝申し上げます。新年度を迎え、平成27年4月より新たに訪問看護ステーションを開設し、院長である天本健司がセンター長を併任することになりました。今後も地域に根ざしたセンターとして貢献できるよう邁進致します。



地域の方が輝いて暮らすことができるような支援を目指して

このたび、4月1日付けで、たいとう診療所・院長、在宅総合ケアセンター元浅草・センター長に就任致しました鮫島です。素晴らしい仲間と囲まれながら日々楽しく、歴史と伝統ある台東区を自転車で走り回っています。志は高く、腰は低く、患者さまから学び、地域をお手本に、洗練されたリハビリテーションの視点と徹底したチームアプローチの手法を駆使しながら、地域で生活する全ての方々が安心して生き生きと、輝いて暮らすことができるようにご支援をしていけるよう、気合いを入れて頑張ります。



介護サービスの質向上を目指して「在宅リハケア講座」再開

昨年6月の開催を最後に中断しておりました「在宅リハケア講座」を再開いたします。本講座は地域で介護サービスを行っている事業者様向けに、病気の事やリハビリの方法などについて講演を行うもので、これまで糖尿病・認知症・脳卒中・高次脳機能障害・介護実技研修など全8回行ってまいりました。

ご利用者さまが安心して暮らせる地域づくりのために、介護サービス全体の質の向上を目指して頑張ります。



季刊情報誌「輝net」 編集・発行 医療法人社団 輝生会 本部／〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-9 5F <http://www.kiseikai-reha.com>

初台リハビリテーション病院	〒151-0071	東京都渋谷区本町3-53-3	TEL.03-5365-8500	http://www.hatsudai-reha.or.jp
船橋市立リハビリテーション病院	〒273-0866	千葉県船橋市夏見台4-26-1	TEL.047-439-1200	http://www.funabashi-reha.com
船橋市リハビリセンター	〒274-0822	千葉県船橋市飯山満町2-519-3	TEL.047-468-2001	http://www.funabashi-rehacen.com
在宅総合ケアセンター元浅草	〒111-0041	東京都台東区元浅草1-6-17	TEL.03-5828-8031	http://www.motoasakusa-reha.com
在宅総合ケアセンター成城	〒157-0072	東京都世田谷区祖師谷3-8-7	TEL.03-5429-2292	http://www.seijo-reha.com

本誌へのご意見ご要望はメールにてお寄せください。 contact@kiseikai-reha.com



kisei・kai
情報誌



2015
Apr.
春号

平成27年4月20日
(通巻 第43号)

輝生会入社式より 2015年4月 新入職員160名を迎えて

今年の輝生会入社式には2つの特徴がありました。1つは、初台リハビリテーション病院開設時以来最多となる160名の新入職員をお迎えしたこと。2つ目は、『輝生会研修センター』の初仕事が、この入社式となったことです。(法人本部が、今年の2月に台東区東上野のキクヤビル5階に移転。同じビル内の7階に『研修センター』として開設されました)



式は4月1日9時30分から約1時間。医師3名、看護師45名、介護福祉士11名、理学療法士39名、作業療法士31名、言語聴覚士17名、ソーシャルワーカー4名、栄養部スタッフ9名、サポート部スタッフ1名、総勢160名の新入職員を迎えて執り行われました。

3月末に石川理事長に新入職員の人数を尋ねられ報告すると、「辞令交付で声が枯れてしまうのではないかな？」と苦笑していましたが、本番では、一人ひとりの名前、配属部署、職種を読み上げ辞令を手渡して、丁寧に新入職員を迎え入れました。



辞令を手にして緊張しつつも、微笑みを浮かべて席に戻る。例年の光景ですが、脇で見守る理事一同、とても清々しい気持ちで歓迎と祝福の拍手を贈りました。

初仕事を終えた『研修センター』は、当初間取りが縦長なことを心配しましたが、真新しい椅子は座り心地良く、音響や空調も適当、前面のスクリーンをカバーするために左右に置かれたモニターも見易く、ほぼ時間通りに理事長講演最後のスライド!「One for all, All for one」を聞き終え、準備関係者一同ホッとしました。

昼食をはさんで、午後から総日数6日間の新採用者研修がスタートしました。初台は病院と研修センターを使い分け、船橋は病院の大会議室で、座学あり、ワークショップあり、実技指導あり…盛りだくさんの研修が展開されました。

新卒、新社会人にとって知識や技術、そして様々な経験が足りないことは当然のことです。逆にあるのは、若さや元気、素敵な笑顔や頑張ろうという気持ち、そして今回の160人の同期の仲間たち、その背後に1,000人近い先輩スタッフがいます。それらを大切にして輝生会職員として成長できるよう、新採用の皆さんへエールをお届けします。

そして今、西新宿の中央公園も、船橋リハ病院までの海老川沿いも、台東区に沢山ある寺院の境内も、成城学園大学周辺も、船橋市飯山満商店街の並木道も、桜満開！新入職の皆さんのこれからを祝っています！

文責／教育研修局 局長 小林由紀子



基本理念と方針

- 「人間の尊厳」の保持
- 「地域リハビリテーション」の推進
- 「情報」の開示
- 「主体性・自己決定権」の尊重
- 「ノーマライゼーション」の実現

患者さまの権利

- 人権を尊重される権利
- 最善の医療を受ける権利
- 自らの意志で選択・決定する権利
- 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利
- プライバシーの保護を求める権利

訪問看護ステーション特集

現在、輝生会5拠点の中で訪問看護を実践しているのは、在宅総合ケアセンター元浅草と在宅総合ケアセンター成城の2拠点です。そして、今年平成27年4月から新規に船橋市立リハビリセンターにも開設します。個人的には将来、すべての拠点、つまり両リハビリテーション病院でも実践することを秘かに願い、現状の整理と提供する訪問看護サービスの質向上に、日々力を注いで参りたいと思っています。

訪問看護サービスの特徴

住み慣れた家、そして街で…、利用者の皆さまとご家族にとって、何が一番幸せであるのかを一緒に考えていきます。つまり利用者の皆さまやそのご家族が、安楽な在宅療養生活を送れるように、そして安心して介護が継続していけるように、主治医やリハスタッフ、地域の介護サービススタッフとの連携を図り、24時間365日、緊急のご相談に対応し、医療・介護における看護ケアサービスを提供しています。



成城

Sさん：その人の「生活」を大切にし、訪問時に1回は笑顔が見られるような話題を提供するように心がけています。

Kさん：時間管理が大切だと気づき、優先順位を考えるように努力しています。貴重な経験をさせていただき、私の方が患者さんやご家族に感謝することが多いです。

Eさん：訪問看護1年目。自転車で区内を走り、四季の移ろいを肌で感じる事ができ幸せに思いました。ターミナル期の方のお正月。ご本人もご家族も余裕なく過ごされている中で、少しでもお正月を感じていただくお手伝いをし、患者さんから「忘れないよ、このことを…」とのお言葉をいただきました。実り多い1年間でした。

田中さん：このようなスタッフと一緒に働けていることに喜びを感じ、これからさらに学習意識を持って、質の向上につなげたいと思っています。

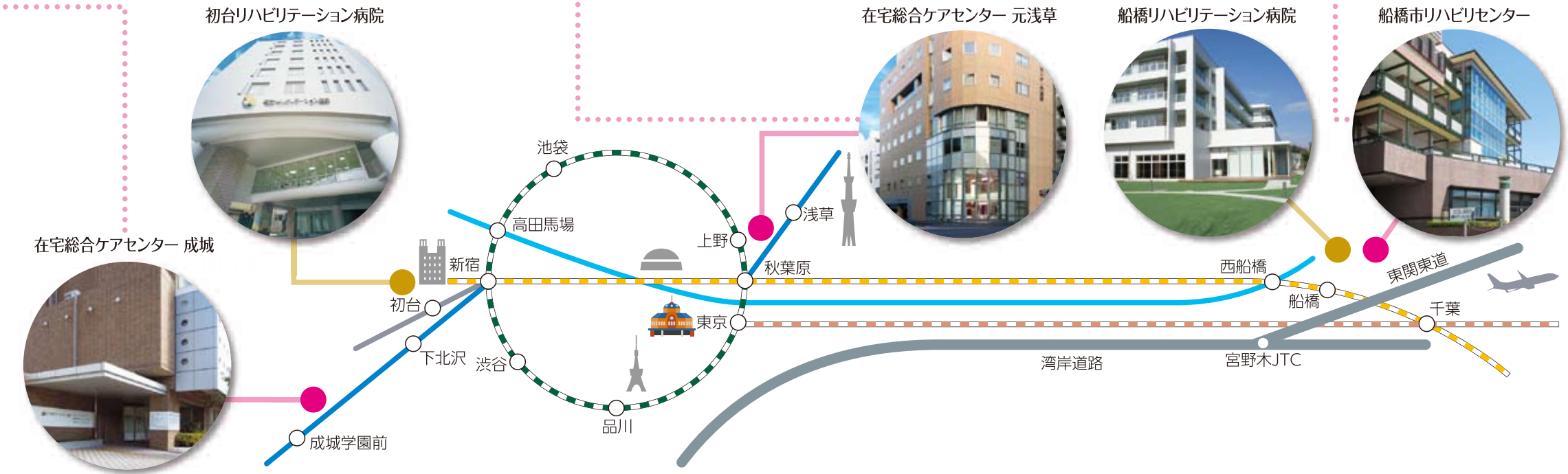
在宅総合ケアセンター元浅草・訪問看護ステーションわか・所長・馬場真樹子
在宅総合ケアセンター成城・訪問看護ステーション成城リハ・所長・田中 智子
船橋市リハビリセンター・訪問看護ステーション・所長・横山 恭子
輝生会教育研修局・局長・小林由紀子

ご利用いただけるサービス内容

- 症状の観察
- 症状のコントロール
- 医療機器管理
- 医療処置
褥瘡処置・点滴・尿管カテーテル・在宅酸素
インスリン注射・人工肛門・胃ろう・吸引・気管切開
経鼻栄養・中心静脈栄養など
- 清潔援助
入浴・清拭・爪切り・手浴・足浴・洗髪
- リハビリテーション
- 療養上のご相談
療養環境の調整や医療・介護に関する相談
ターミナル期に関する相談

スタッフの数・訪問エリア

拠点名	スタッフ数	訪問エリア
在宅総合ケアセンター元浅草	5名	台東区内 文京区・中央区・墨田区の一部
在宅総合ケアセンター成城	4名	世田谷区西北部 調布市・狛江市の一部
船橋市リハビリセンター	3.5名	船橋市内 習志野市の一部



元浅草

Fさん：いつも一人きりの訪問だからこそ、日頃のスタッフ間のコミュニケーションを大切にしています。「大変な時はお互い助け合う。仕事は大変だけど楽しい。忙しいけどやりがいがある。」といった雰囲気作りを大事にしてきました。

Sさん：ご家族から「ずっと見てもらってきたので、最後はあなたに看取ってもらいたい」と仰っていただきました。訪問看護、やっていて良かった！

Kさん：健康面、生活面、ご家族のことなど、一番にご相談いただくことがあると信頼関係が築けたと感じます。

Tさん：利用者の方が笑顔でいて下さった時、何よりもうれしいです。

馬場さん：このようなスタッフと働くステーション所長として、利用者さまが求めていることを常に察知し、ニーズに応えていける看護師でありたいと思う。そして思いやりと感謝の気持ちを忘れないで邁進していきたいです。

（開設準備にあたり）

横山さん：夢は見るだけでなく叶えるもの、つまり現実の実践に反映するものだと思います。2拠点の先輩達にアドバイスをいただきながら、夢を叶え、実践していきます。いつか成果を報告させていただきます。



船橋

地域包括ケア推進に向けて

地域連携を充実させ、地域に根差し、利用者の皆さまからの信頼を得て、お一人おひとりから「自宅で過ごせて良かった」「訪問看護師さんに看てもらえて安心した」と言っていただけのステーション・訪問看護師を育成していきたいと思っています。そのためには、当法人の最大の特徴であるチームアプローチの徹底、拠点内の全職種による連携と共同、さらに回復期と生活期をつなぐ5つの拠点間の連携と共同、そして今、医療・介護の中心的テーマである地域包括ケア体制の推進に向けて地域の方々との連携など…課題山積！

実践にあたり『回復期を知らずして、生活（維持）期を語るなかれ。生活（維持）期を知らずして、回復期を語るなかれ』の考え方から、回復期看護と在宅看護の双方を経験するナースになってほしいと願い、その仕組み作りも検討していく予定です。今後とも訪問看護ステーションの活動について、どうぞよろしくお願いします。